江村夏樹

遠くに聞こえるあれはたぶん祭りだ

能管、篳篥、バリトン・サックス、
女声、打楽器のための

I Hear Something In The Distance, Maybe That Is A Festival

for nōkan, hichiriki, bariton sax,
female voice and percussion

Emma Nakamura

2016.

秘調譜
bariton sax
written in Es

11の部分から成り、休みなく続けて演奏する。

能管と篳篥のパートの音程は近似値で、
これに近い音程で演奏すればよい。

能管、篳篥、バリトン・サックスの速度は
♩=70を基準とし、♩=50から♩=80の
あいだで揺れる。

5人の奏者の"時計"は合っていない。

3人の管楽器と女声は、ノン・ヴィブラートで
演奏する。

演奏時間　約20分強

n = 能管 (nōkan)　h = 篳篥 (hichiriki)　bs = バリトン・サックス (bariton sax)
fv = 女声 (female voice)　p = 打楽器 (percussion)

'16. 2, 21.
N

打楽器

- 低い音の拍子木またはクラヴェス
- 拍子木またはクラヴェスより
  さらに低い音の木片
- ティンシャ
- 鈴
- 鉦，シンバル，あるいはトライアングルの
  たぐい

'16. 2. 21.

N

1

n.
h.
bs.
fv.
p

爪切ったわびがゝ本ある

ad lib

花火があがる空の方が町だよ

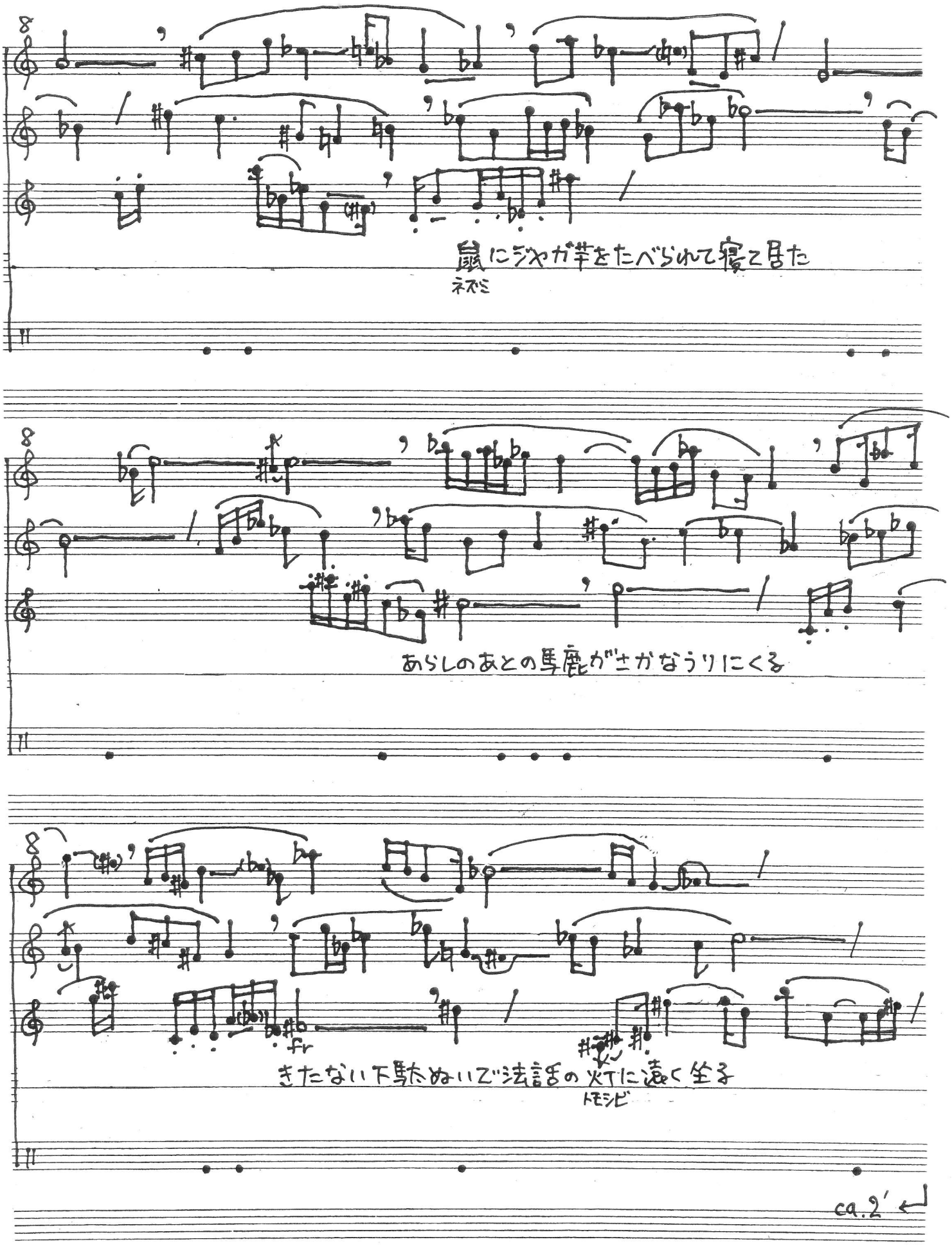
障子の穴から覗いて見ても留守である

テキストは
註 いずれも尾崎放哉の自由律俳句。青空文庫より。

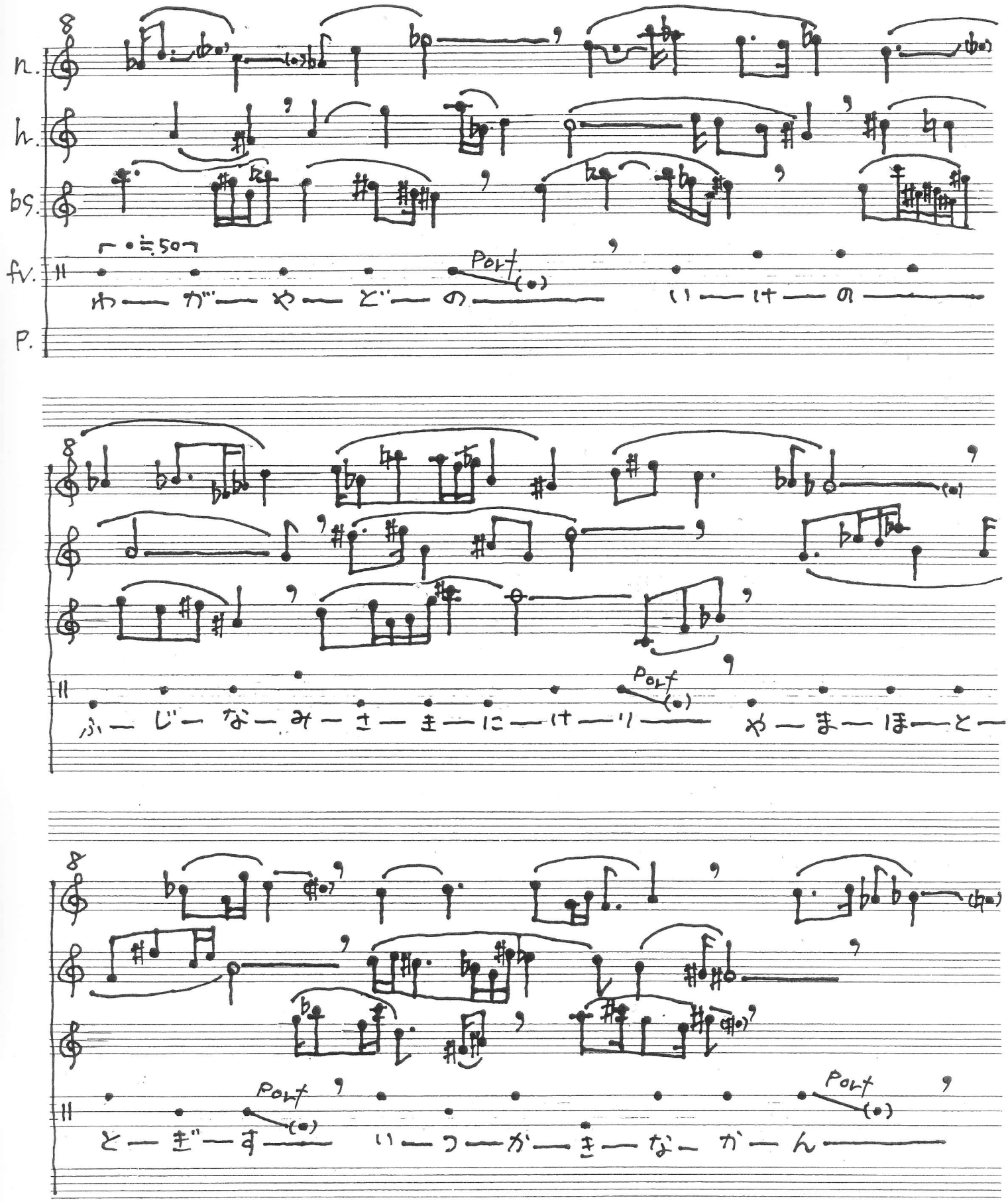
'16.2.2.—

1.

'16.2.3.


鼠にジャガ芋をたべられて寝て居た
ネズミ
あらしのあとの馬糞がさかなうりにくる
fr
きたない下駄ぬいで法話の火に遠く坐る
トモシビ
ca.2'

'16.2.3.— 2. '16.2.4.



ca. 1.

註 テキストは 我が宿の池の藤浪咲きにけり山時鳥(ホトトギス)いつか来鳴かん
(古今和歌集 巻第3(夏歌)0135 読人しらず)

'16.2.10.

3.

'16.2.10.

3

n.

h.

bs.

fv.

P.

4音節≒70

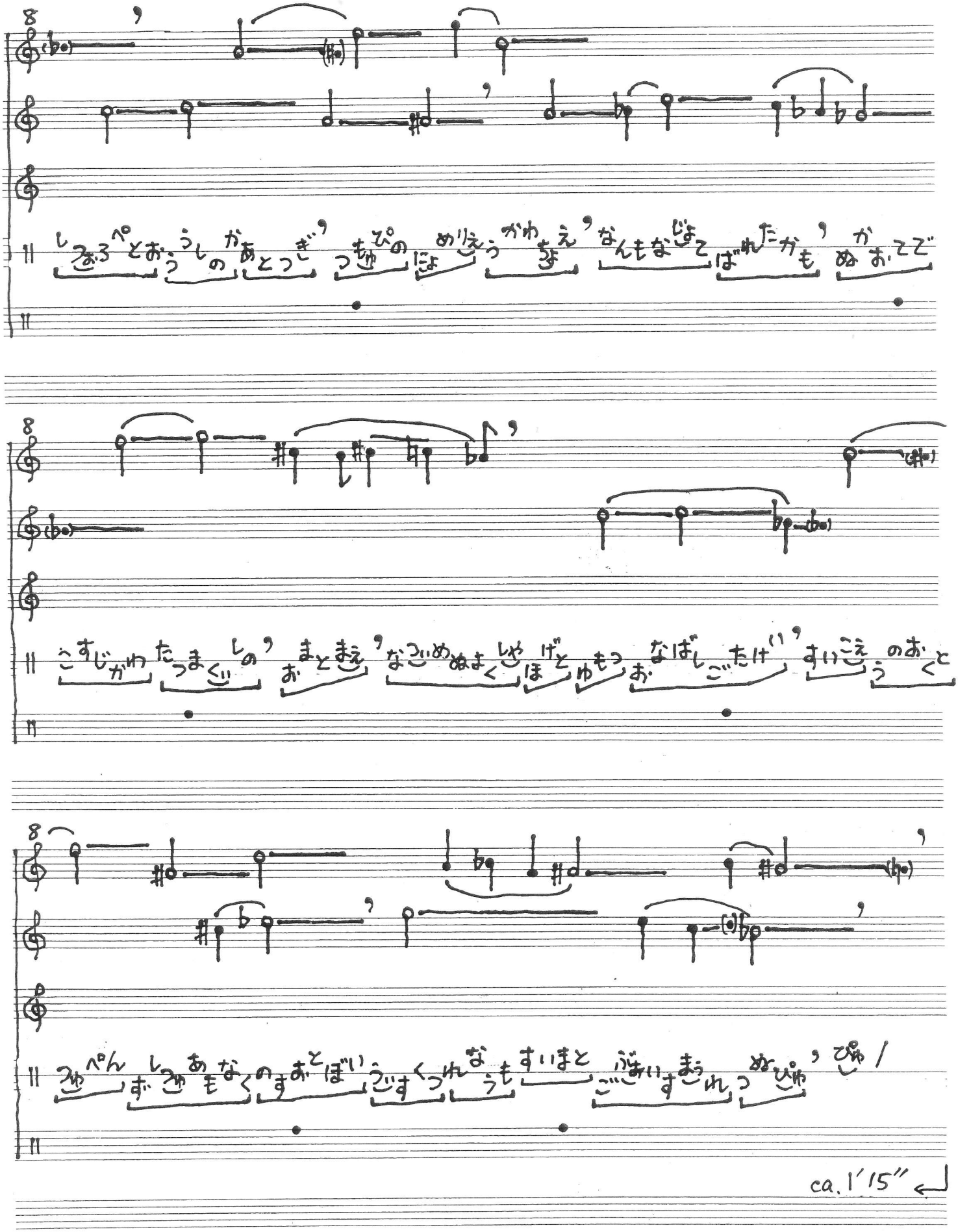
f

f ad lib.

註 テキストは江村夏樹による(1989年)。

'16. 2. 16. —

'16. 2. 17.


しぶるぺとおうしのかあとつぎ
っちゅぴのにょめりえうがわちょえ
なんもなじょてばれたかも
ぬかおてで
こすじがわたつまくりしの
おまとまえ
なついめぬまくしゃげとゆもつ
おなばしごたけい
すいこえうのおくと
つゅぺんしつゅあもなくのすおとぼいうづすくつれなうもすいまと
ぶきいすまうれっぬぴゅ
ぴゅ！
ca. 1′15″

'16. 2. 16. —

4

能管は1オクターヴ高く

能管と篳篥は同じ楽譜を用い，だいたいそろって吹く

n. h.

bs

fv

p

高鈴

但

meno

ad lib.

GDA

き の (う)

女声 移調してもよい
おおよその音程でよい
うたうより「語る」こと

meno

み し ひ と きよ(う) は な し

註 テキストは 昨はみしかけふはなし けふみる人もあすはあらじ
あすともしらぬ我なれど けふはひとこそかなしけれ
(宝篋印陀羅尼経料紙 今様)

'16.2.18.—

6.

(↱8)

meno

きよ (う) み る ひ と も

(↱8)

あ す は あ ら じ あ す と も

(↱8)

meno

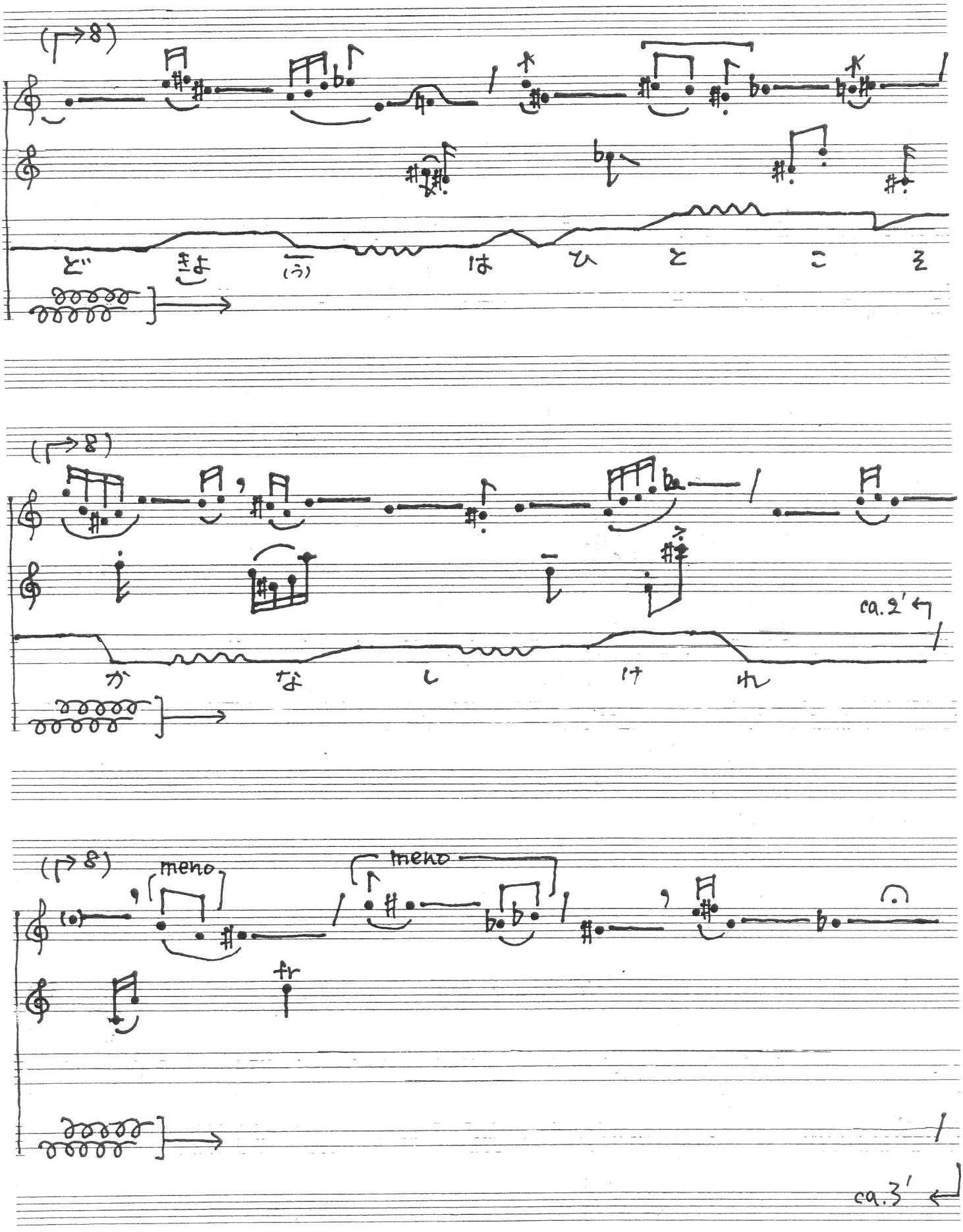
meno

meno

fr

し ら ぬ わ れ な れ

'16. 2. 18. —



'16.2.18.—

5

P. ♫ ときどきティンシャを鳴らす。

fv. 恋の情熱などやがては冷めるものなのです。

かつて、今の夫と恋に落ちたときの情熱を思い出してみて下さい。あの恋がこうも色あせ、魅力を失うときが来るなど、あのとき予想したでしょうか。

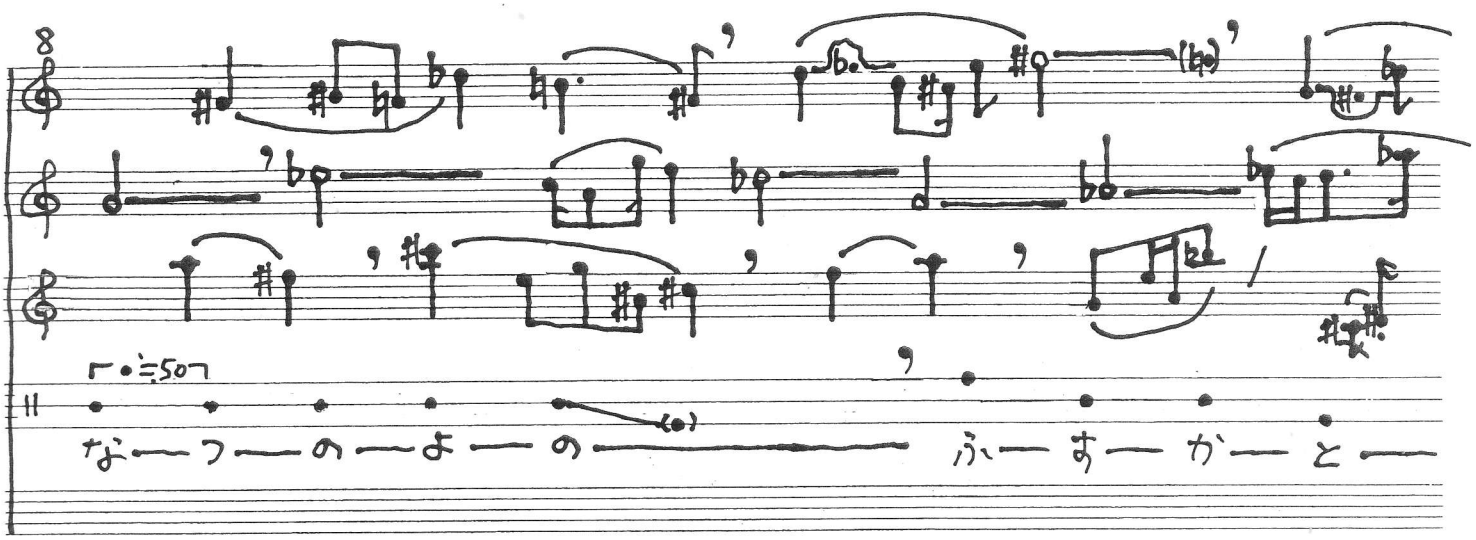
」 1'20"–1'30"

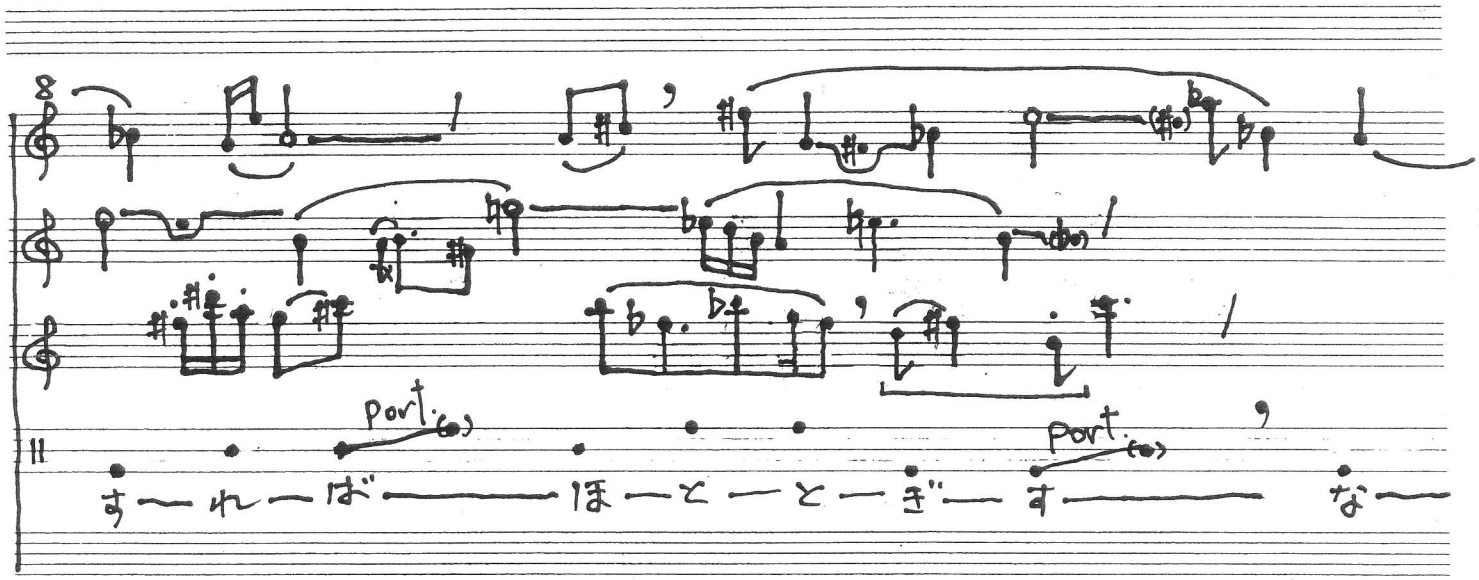
註 テキストは
瀬戸内寂聴
「生きることば あなたへ」光文社
三、くるしみ 101頁

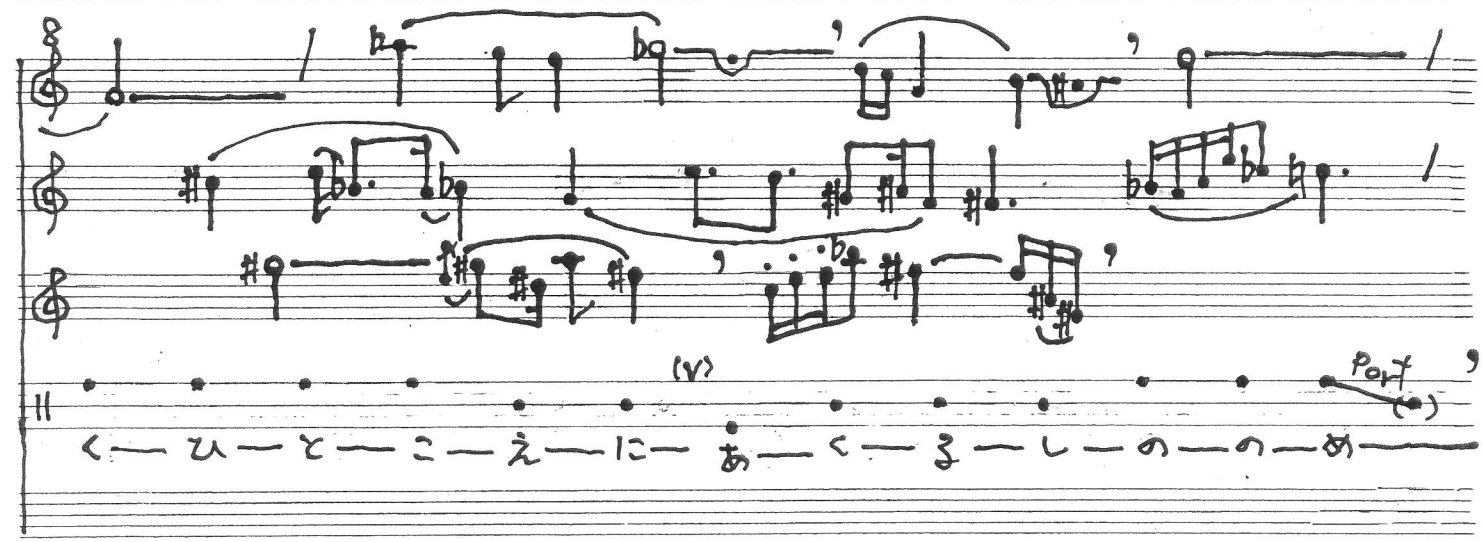
女声 たいへんゆっくりと
音韻を一字一字たしかめる
ように語る。
抑揚は変えてもよい。

'16.2.13.—

6







註. テキストは 夏の夜の飽かずかとすれば時鳥(ホトトギス)鳴く一声に明くるしののめ (ca. 1′)
(古今和歌集 巻第3(夏歌) 0156 紀貫之)

'16. 2. 11. —

7

私は逆上してゐた

宇野千代

つい、昨日のことであつた。五木ひろしが映画「おはん」の唄の吹き込みをするので、その席に立ち合つて貰ひたいと、東宝から申込みがあつた。

私は五木ひろしとは会つたことはなかつた。しかし、ずつと以前のことであるが、五木ひろしがたつた一人で、シルクロードを廻つたときのテレビを見て、感動した記憶があつた。その五木ひろしが今度、私の「おはん」の唄の吹き込みをしてくれると言ふのも、あの「おはん」と言ふ小説がとりもつ縁であると思ひ、私はうちのものたちをつれて、そこへ出掛けた。

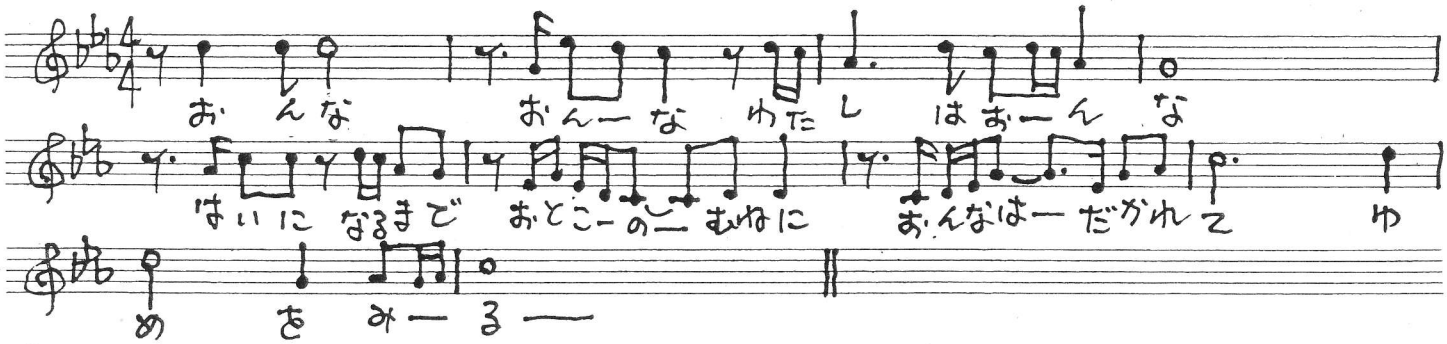
夜の九時半を過ぎてゐた。どう言ふわけで、さう言ふ遅い時間を指示して来たのか私には解らなかつたが、しかし私は、唯々諾々としてその指示に従つて、そこへ行つたのであつた。

五木ひろしと並んで、記念写真をとられる。「こんなところへいらしたのは、初めてですか。」とそのとき、五木ひろしが私に言つたが、私の体のすぐそばに、五木ひろしの体を感じると、この人の、何とも男つぽい肉体的感覚が、満八十六歳の私の体に伝はるやうな気がしたから、不思議である。

五木ひろしの声は何とも美事なものであつた。あの流行歌と言ふものに対して、特別に関心のなかつた私であつたが、五木ひろしのその体の振動に合せて、自分も体を振動させ、「をんな、をんな、わたしはをんな」と言ふ、そのさし迫つた演歌の文句によつて、自分がその女になつたやうな気になつたものである。私はその歌詞が、自分の書いたあの「おはん」の気持ちを歌つたものであることも忘れて、こんなにも逆上してゐたのである。そして、かう言ふ現象が、演歌と言ふものに特有なものであると言ふことも忘れ、その歌詞の最後の二行である「灰になるまで男の胸に、女は抱かれて夢を見る。」と言ふ巧妙な文句は、これはこの自分のために書かれたものに違ひない、と思つたとは、何と言ふ滑稽なことであらう。

（『しあはせな話』中公文庫、15－16頁）

映画「おはん」主題歌 3番の後半，うた＝五木ひろし



作詞 たかたかし
作曲 岡千秋
YouTube動画から採譜

'16.2.21.

11.

7

n

h

bs

fv

[宇野千代「私は逆上してみた」別紙参照]→

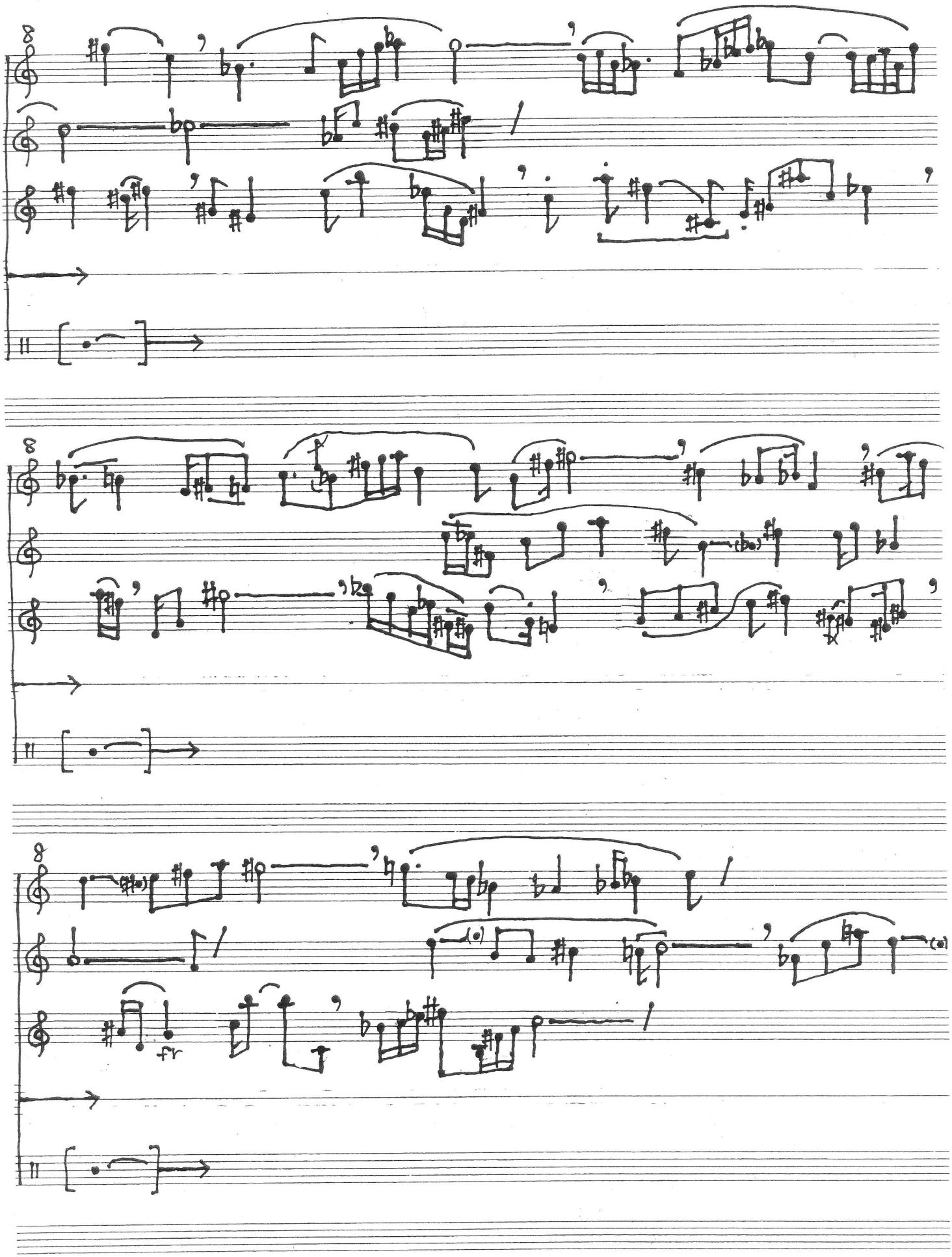
p

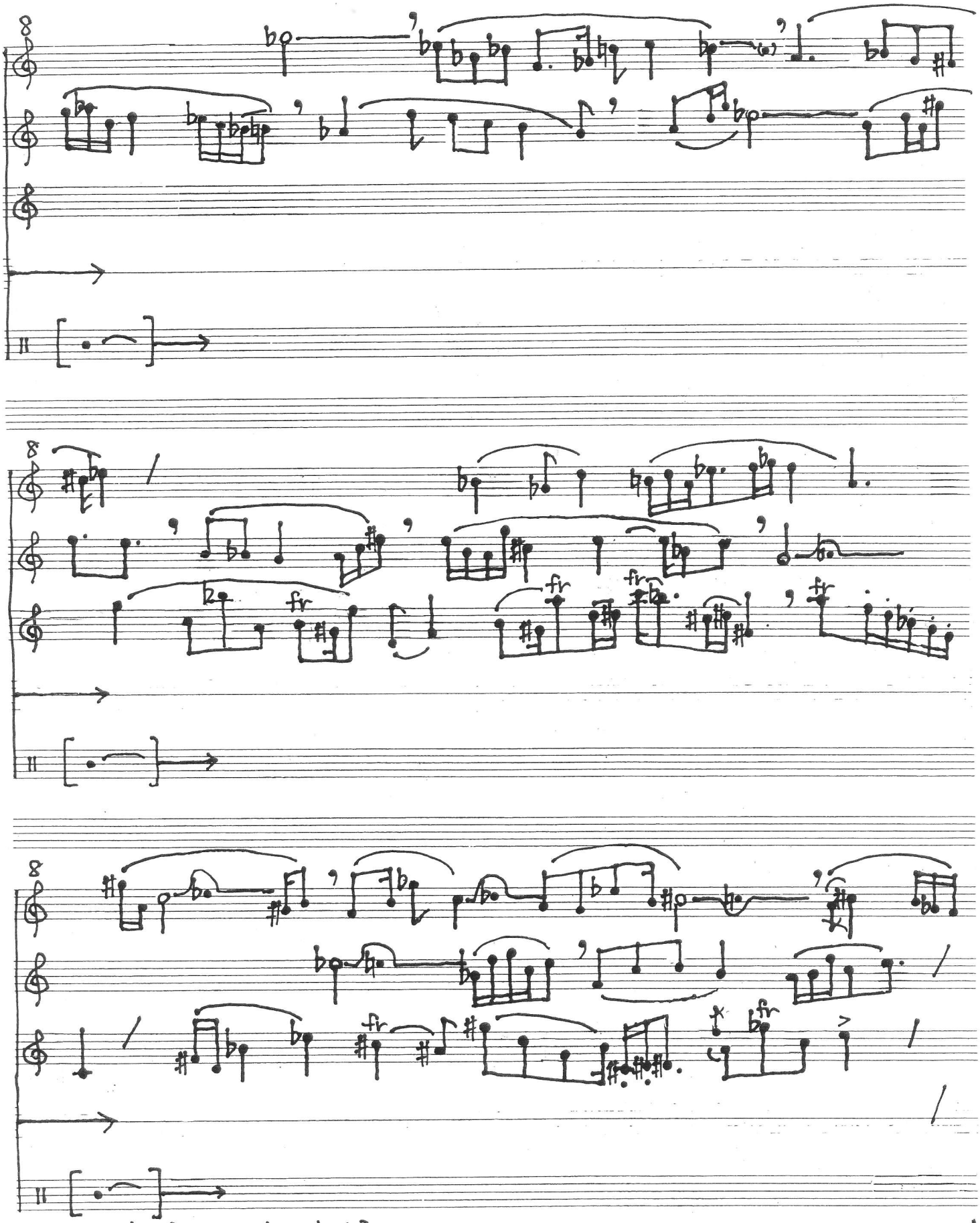
打楽器　ゆっくりと、不規則ながら、だいたい等間隔で。

fr

'16.2.5.—

11.


fr



'16. 2. 7. —

8

能管は1オクターヴ高く　　能管と篳篥は同じ楽譜を用い、だいたいそろって吹く

(↱8)

n. h. bs. fv. p

打楽器　複鈴を8のあいだ鳴らし続けてもよい。

(↱8)

↱0″

G D A

わ　れ　ら　が　こ　の

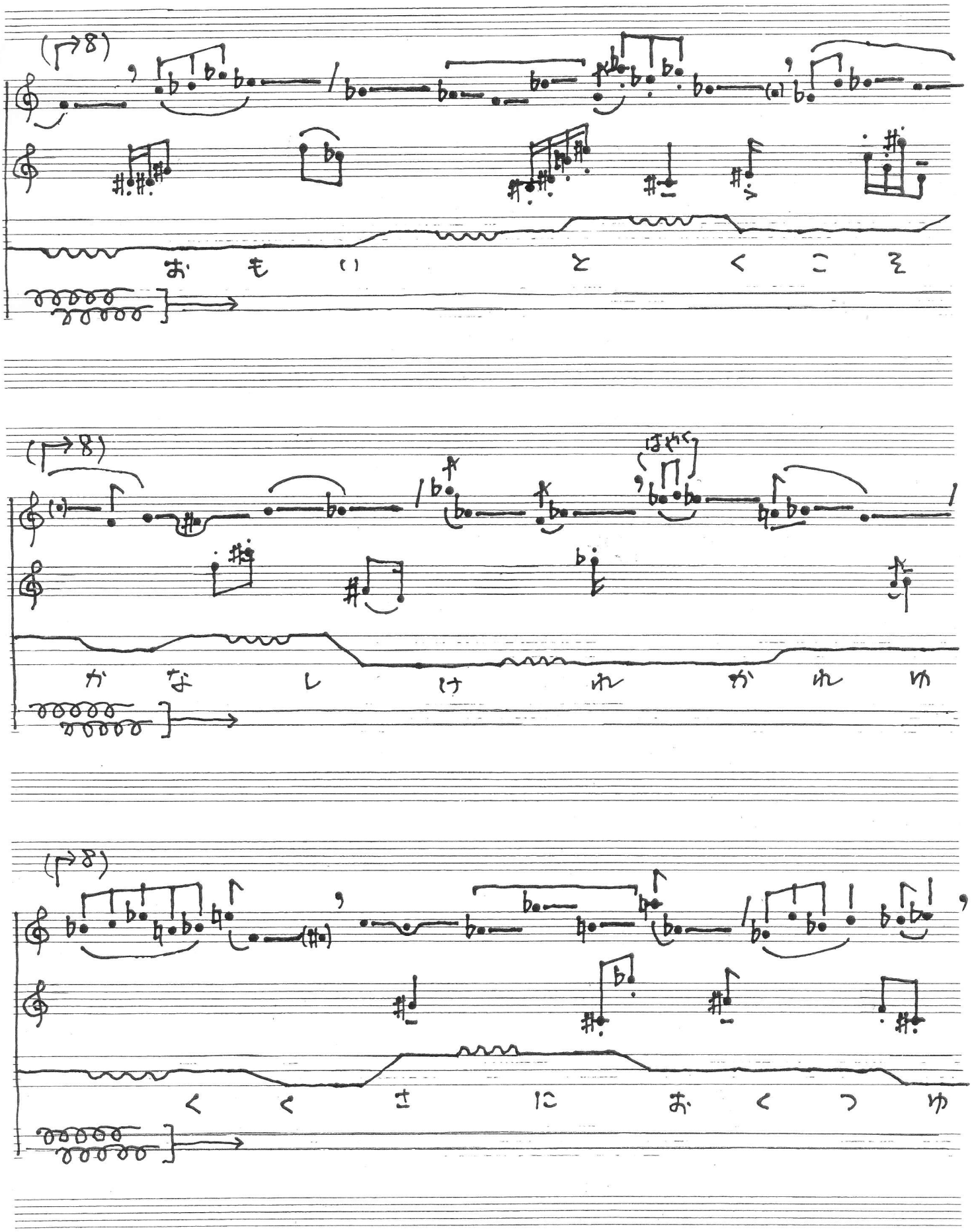
女声　移調してもよい
音程はおおよそでよい
うたうより「語る」こと

(↱8)

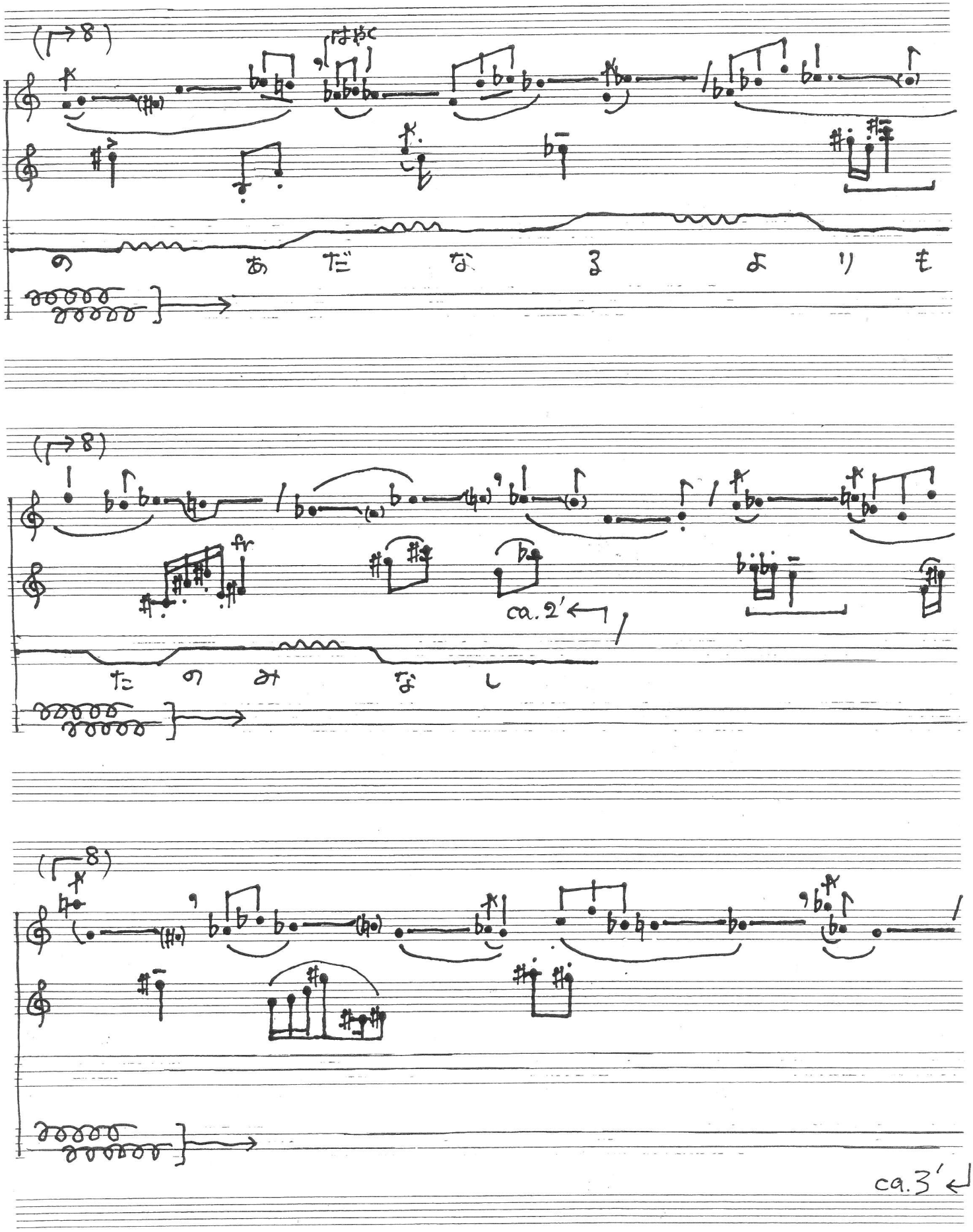
み　の　は　か　な　さ　を

註　テキストは　吾等がこのみのはかなさを　おもひとくこそうかりけれ
かれわくさにおくつゆの　あだなるよりもたのみなし
（他阿「往生讃」）

'16. 2. 19. —



'16.2.19.—



'16. 2. 19. —

9

P. ♫ ときどきティンシャを鳴らす。

たいへんゆっくりと
女声　音韻を一字一字たしかめる
ように語る。
抑揚は変えてもよい。

fv. 孤独に甘えてはいけません。孤独を

飼いならし、孤独の本質を見きわめ、

自己から他者の孤独へ想いをひろげるわとりを

手に入れないかぎり、孤独の淵から這い出る

ことはできないのです。」1'20"－1'30"

註　テキストは
瀬戸内寂聴
「生きることばあなたへ」
光文社　二.さびしさ
84頁

'16.2.13－　　17.

10

n.
h.
bs.
fv.
p.

4音節≒70

ついすじらんでこうずすすえおなこぐし いえらすにえうこずらすいえこたおきちきのあせこしるいまよ

f ad lib.

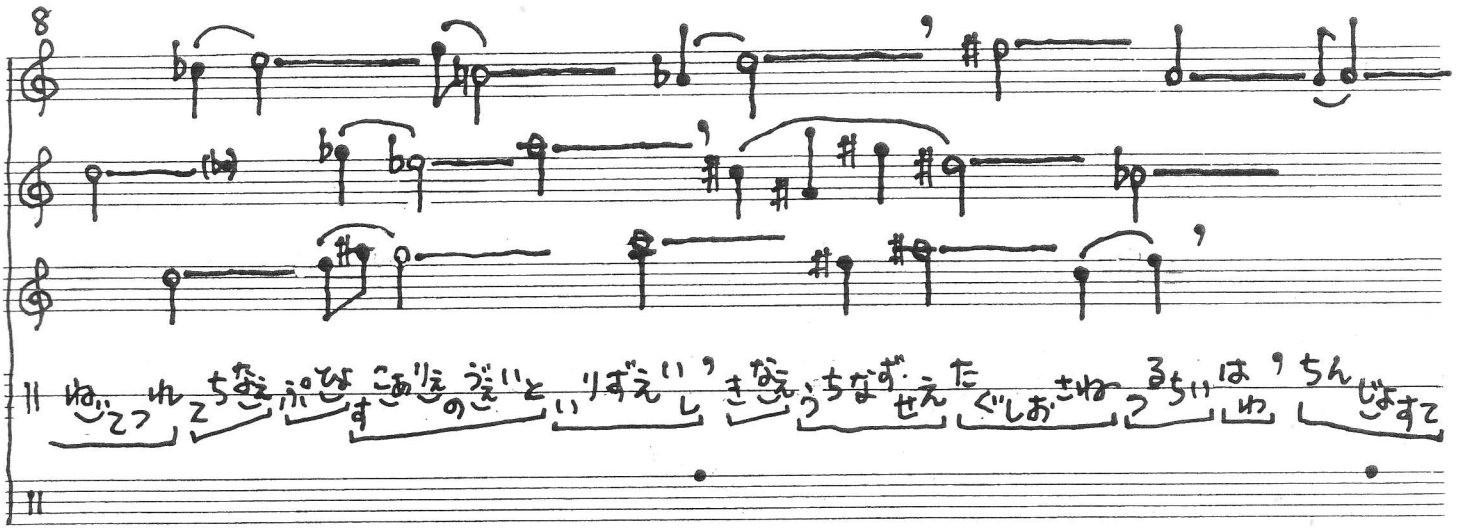
いんきがめのほせくうぐにえつづたおげれちゆよなもとがしねらくぬつすいもじれいといすまずりぐにえぽんちよ

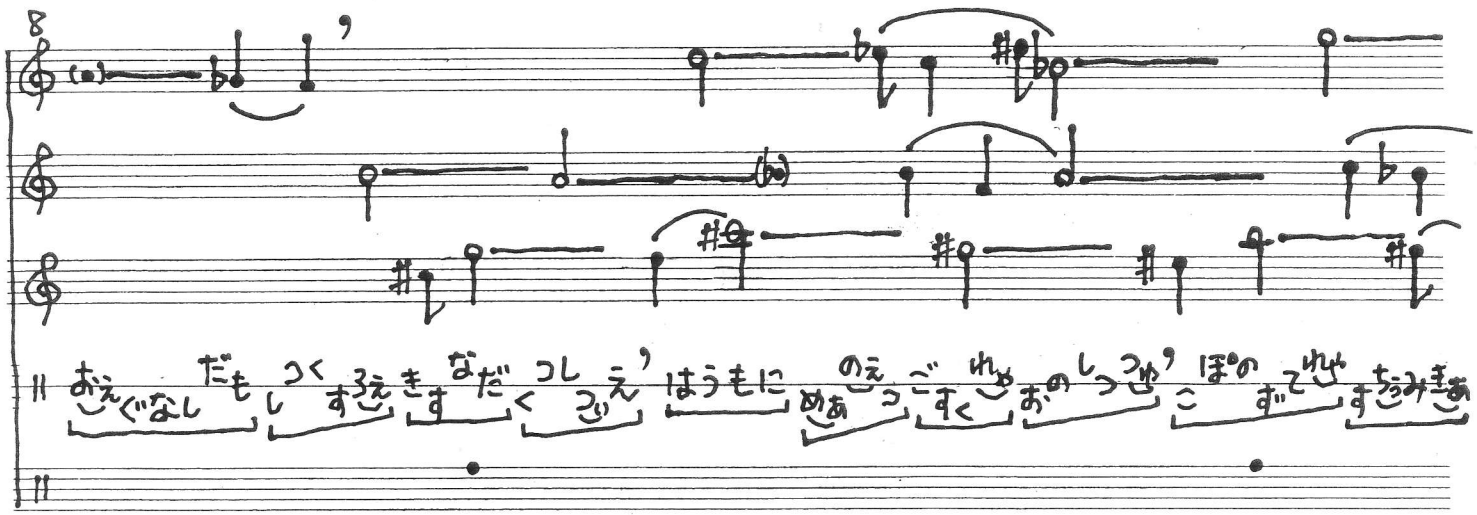
ほはやのいちつじけくきがよめすぬいんきぐすいけのめようおえゆぎよれこしたおえつすびきへらすぐしちちぬく

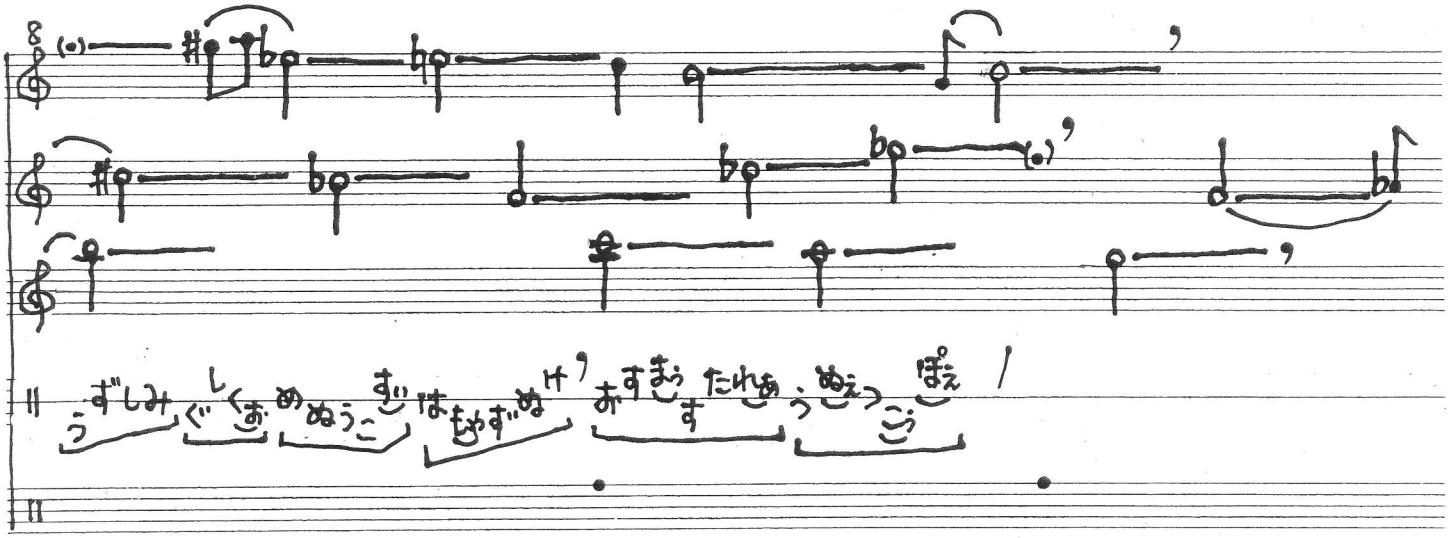
註 テキストは江村夏樹による(1989年)。

'16. 2. 15. —

'16. 2. 17.







ca. 1'15"

'1 . 2. 15. —

19.

'16. 2. 17.

11

（内田百閒『億劫帳』XII、中公文庫、54 頁）

いつ迄も生きてゐるので自然年を取る。子供の時に見た年寄りとかぢぢいとか云ふものの記憶を自分に就いて思ひ出す。何だか知らないがぢつと坐つてゐても手先の用事が馬鹿に忙がしくなつて、あつちを片附けたりこつちをひろげたり、あんまりちらくら手を動かすので時時引つかかつてそこいらの物を引つ繰り返へすからますます忙がしくなる。むしやくしやして手が二本では足りないと思ふ。

n.

h.

bs.

solo

fv.

[内田百閒「億劫帳」XII, 別紙参照]

p.

ad lib.

fr

solo

ca. 1'

('16. 2. 9.)

'16. 2. 9. —

20.

2016. 2. 23.

江村 昌樹